

「広報さつぽろ」の裏の裏

広報さつぽろが家庭に届くまで

広報さつぽろの作成過程と家庭に届くまでを、順を追って紹介します。

① 編集

市役所や区役所では、前月初めから取材や情報収集を進め、文章を書いたり構成を考えたりして、記事を作ります。



1冊当たりのページ数は
全市版32ページ+
区民のページ8ページ+表紙

全市版（全市共通のページ）は、標準が三十二ページで、三十六ページの月もあります。区民のページは

区ごとに内容が異なり、毎月八ページです。

■全市版の構成・編集

特集や市政ホットニュース、お知らせなどのページがあり、すべての市民に向けて、市政情報を提供しています。

編集しているのは、市役所広報課広報係の六人です。

■区民のページの構成・編集

区民のページには、地域の活動や区民を対象としたお知らせなどの情報を掲載しており、各区がより身近なまちづくりを進める上で、重要な役割を担っています。

この部分の編集は、各区役所の総務企画課広報係職員五人が、地域に密着した広報広聴活動の一つとして担当しています。

② 印刷

広報さつぽろの原稿が印刷会社に渡さ

れるのは前月の中旬。印刷会社では、原稿から印刷のための版を作ります。それを基に、市役所・区役所の職員が校正を五回繰り返し、印刷に取り掛かります。



1冊当たりの印刷製本費は
45.1円*

*標準のページ数で全市版の1〜8ページと区民のページがカラー、そのほかのページが2色の場合

印刷製本費は、毎年入札によって決まります。今年度の場合、印刷部数は約八十五万部です。一カ月の印刷製本費は約三千八百万円。ほ

広報さつぽろの課題

広報さつぽろを取り巻く現状を見てみると、いくつかの課題が浮かび上がってきます。その解決のためには、発行形態はもちろん、内容や配布の在り方などにも踏み込んだ、大胆な見直しが必要となります。

① 協働型社会への対応

市では、協働型社会の実現に向けた取り組みを進めています。これは、市民、企業、行政といった地域の構成員みんなが力を合わせながら、札幌市という都市を運営していくというものです。

多様な人々がまちづくりを担う中で、広報さつぽろが果たす役割とは何か。協働型社会の実現のため、市役所にまず求められるのは、情報共有の徹底による市民などとの信頼関係の構築です。全世帯に配布される広報誌は、その中心となるもの。幅広い情報を提供していく手だての一つとして、将来的な在り方を考える必要があります。

② 情報化社会への対応

今や、市民生活に深く浸透しているIT(情報技術)。その代表例の一つがインターネットです。先日実施した市民アンケートの結果によると、市民のインターネット利用率は約四割に達しています。

現在、広報さつぽろも、月に一度